

品川支部

平成29年4月1日発行

〒141-0022

品川区東五反田1-8-5

TEL 3442-7075

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

4月

四月四日は東京教務支庁 設立記念の祭典

桜の季節です。毎年四月四日は教務支庁の設立記念日の祭典が行われます。式典に続き、ハ交代で座りつとめ、てをどりが勤められます。記念講演は高安大教会長 松村義司先生です。

第二部は、どんぶり物、麺類、空揚げ、焼き鳥やデザート等、各支部を中心にかなり力の入った模擬店が出店され、今回はコーラスの他、今年カーネギーホールで公演が決まっている雅楽等も披露されます。品川支部は、焼きそばを担当致します。平日ではありますがこの場所はソメイヨシノの発祥の地で見事な満開の桜の下での祭典ですので、教務支庁へ行ったことがないという方も二部からでも是非お越しください。



品川支部 焼きそば準備中

第二部 模擬店で昼食風景



☆支部行事のお知らせ

・全教一斉ひのきしんデー
詳細は二頁に掲載と改めてパンフレットを配布する予定です

・支部幹事会

四月九日(日)・三十日(日)午後六時(都南にて連絡会を含めて二回です)

・教区ひのきしん(四月五日(水))

当番は本荘組です宜しくお願いします

・神名流し

四月一日(土)午前十時

場所 大井西口ロータリー

・在宅センターひのきしん

四月二十八日(金)午前十時

・支部例会

四月は全国ひのきしんデー参加で代行となり、いつもの例会は行われません

☆教務支庁からのお知らせ

・基礎講座 今月は二回開催

四月八日(土)夕方五時から六時半

四月九日(日)午後一時半から

・陽気ぐらし講座

陽気ぐらし講座が一新されました
品川支部六月の講師の先生も本部からの講師を予定しています

荻外荘

現在の布教の家は杉並区に返還することにより、これは、荻外荘「てきがいそう」と言われ、旧近衛文麿邸であったという事から今回、国指定史跡として整備されることになったそうです。

これに伴う布教の家の移転建築には、ある程度の金額は出していたと思いますが、尚、掛がありますので、教務支庁お屋根の葺き替えと共に、ご協力をお願い致します

婦人会だより

子育てホッパ(ひまわり)

というコーナーを天理教ホームページ上で立ち上げました。

うれしさの中でも子育ては、何かと心労の溜まる事もあります、

ちよつと疲れた時にお母さんに覗いて頂けたらと思います。

アクセスは

天理教のホームページを開き

婦人会の母親講座コーナーの中にあります。

にあります。

拠点教会	2日号	9日号	16日号	23日号	30日号
日本橋	直送	手配り	手配り	手配り	手配り
本荘	直送	手配り	手配り	手配り	手配り
都南	直送	手配り	手配り	手配り	手配り
三ツ木	手配り	直送	手配り	直送	手配り
水豊田	直送	手配り	手配り	手配り	手配り

時報手配り四月予定

全国一斉ひのきしんデイ

平成29年4月29日 (土) 9時半集合

場所 大井ふ頭中央海浜公園

毎年40万人程の教友が全国でこの日 ひのきしん活動に参加されています

***品川支部はお楽しみビンゴ等用意し、運河の近くで弁当を持参して子供から大人までみんなで行います。初めての方もどうぞ参加下さい。**



バスの運行等、詳しくは、パンフレットにて、お知らせいたします。

教会紹介

鶴平分教会元へ日



私共の教会は一昨年六十周年を迎え、大勢の方々の参拝を頂きました。又、周年行事の一環として、今まで教信者の方が車での参拝が中々出来ず、難儀していました。隣地の土地を購入のご守護も見せて頂きました。

冒頭、創立記念の事を記しましたが、設立は教祖七十年祭の前年です。

初代(父)は信州から尋常高等小学校を出て、直ぐに東京大森の乾物商に奉公に出て来ました。母は横浜で小学校を出てから、市内の古川電工で勤めておりました。信仰は、現在の高級教会・鶴一の初代が舞鶴から横浜で昭和九年単独布教をされていた折、初めてにをいが掛かったのが母の祖母でした。

布教師の話は祖母以上に自身の環境を変える力強さを与えてくれたそうです。父は父なりに、信州の親への孝行を尽くしておりました。奉公先の主人から母を紹介され、夫婦になった直後、乾物商の暖簾分けを許されました。大井原町に店を開店し、戦中戦後若干三十の歳で品川食品組合の會長など、日の出の勢いで商売を広げていきました。その頃、東本、本荏や大勢の布教師が店の前にやって来たそうです。

昭和二十三年の初夏、風の便りに横浜の孫娘が東京で羽振りの良い女将さんになつていると、横浜の鶴一の初代の耳に入り、当時の後継者・一瀬俊夫先生の、おちばがえりの誘いを受けて大和へ車中の人となりました。

別席を聴いた後、天理土産に社を購入手形だけの信仰が始まりました。が、それから二週間余り後、最愛の長女が日本脳炎で一夜の

間に、出直す節に見舞われました。葬儀の相談に信州からも兄弟達が来、浄土宗での葬儀に決めかけた時、父は「天理教で葬儀する」と思ひもよらぬ判断をしました。それは夫婦の理合いを度々説かれていた上級先生の話が胸に蘇り、神様の思召しを悟ったからだそうです。そして直ぐに間口六間の店先で天理教葬を行いました。瞬く間に商店街に「天理教を信仰したから娘が死んだ」などと噂が広まったそうです。

しかし父は、その後も店の先買い物を捕まえてはにをいがけし、商売そつちのけだつたようです。遂には商売から一線を退き布教を始めました。無論夫婦の溝は深くなりましたが、母もその熱心に絆され、当時三人の娘と共に信仰の道へと通つていきました。

昭和二十八、九年には大勢のよふぼくが誕生し、教祖七十年祭の前年に教会

設立を見ました。教会になる前を知る姉妹は幼稚園、長唄、三味線など女中さんの送り迎えの中育ちだったので貧のどん底の生活は大変だったようです。私は六番目の長男で、教会生活は他の人達とちよつと変わっているな、と思いつながら育ちました。

先日も事業に失敗して奈落の底へ落ちた、という方の話を聞かせて頂いたのですが、芯の棒、辛抱が無いと人は世を果敢なむ。「平林さんの親やお子達は宗教があつたので、心の拠り処があつて、大成したんですね」と云われました。モノ、カネで人生を狂わす事が多い現代、お道の話により多くの人々に伝えねばと、教会の元一日を思案しているこの頃です。

